

令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和7年10月29日（水）

9時30分から11時30分

場所：会議室 記録：六車

開会（校長挨拶）

東部総合庁舎に行った時のできごとである。年中か年少くらいのダウン症のあるお子さんと目が合い、あちらからエアタッチをしてくれ、とても温かい気持ちになった。

言葉のない方、重度の方、自閉性の強い自閉症の方に、自分の存在を認めてもらったり、「この先生とだったら一緒にがんばろう」という気持ちになってもらったりするという人間性を試される深い世界で、私はこれまでずっとそうなりたいと思って授業の研究をしたり、先生方といろいろな勉強をしたりしてきた。そのことをそのお子さんとのちょっとした関わりで思い出した。

特別支援学校ではハプニングは当たり前である。日々いろいろなことが起こる。先日の修学旅行でもハプニングがあったが、決して悪い子だったり困った子だったりではない。コミュニケーションがうまくいかないことと、自分の感覚や情緒がうまく調整できないからその時の精一杯の中でジタバタしてしまった。ホテルの方がとても温かく「いいですよ。旅行を楽しんでください」「先生方も慣れない所に引率で来て不安でしょう。」とフォローしてくださった。おかげで楽しい旅行になった。

いろいろな集団活動があり、学習発表会もやっているが、みんなと一緒に活動できない子が何人かいる。でも、みんなと一緒にでなくて当たり前、ハプニングは当たり前、だけどそのままのあなたで大丈夫、知的障害の方の居場所、ちょっと大げさな表現をするとパラダイス、ここは大丈夫な場所。更に、この学校があることによってそういう子どもたちのことを知っていただき、沼特に関わっていただくおかげで、いろいろな人と一緒に活動できる自信がついたというように多様性について、そういう気持ちを周りの人にもお伝えできる存在。うちの学校がそういう存在になっていくことがあります大切だと思った。日ごろは学校経営という側面からの切り口で話をしていくが、その神髄にあるのはこういった心持ちで、本校の職員は本当に一生懸命、日々取り組んでいる。今日は良さを御覧いただいた上で学校運営協議会としての御助力について検討いただければと思う。

（1）中学部の参観 学習発表会の音楽発表総練習の参観（体育館）

（副校長） 委員の皆さんに良いタイミングで見ていただけた。子どもたちにも良い励みになった。学校支援の一つとして授業を見ていただけた。

（中主事） 子ども達も人に見てもらっての発表ができる。これまでなかったので目の輝きが違った。気合い、良い物を見せたいという思いがすごく表れていた。学年で練習してきたものを学部で合わせてやってきた。先生方も個々の子ど

もに合わせた支援をしながら、支援のたし算やひき算をしながら全体でどういう風に見えるか意識しながらやってきた。10月31日（金）の本番を目指してやっているので本日見ていただけたことは子ども達にとっても先生たちにとってもすごく良い機会となった。先ほど、副校長からネクタイと招待状を回させていただいたが、作業班でも中学部の学習発表会に向けて10月からずっと生活のテーマにしてみんなで気持ちが盛り上がっているところ。本番もがんばりたいと思う。

（副校長） ネクタイや招待状も授業（作業学習）の中で作ってきたもの。ネクタイと招待状だけでなく飾り付ける花に関しても子ども達が作業学習の中で花を植え、当日は花を並べることになっている。自分たちの中で準備をして作り上げる。

（校長） 学習発表会という名称なので、日頃の学習の成果を会場や、いろいろな部分で全て盛り込んで発表するように工夫してくれている。

（2）中学部（園芸班）の学習の様子を映像にて紹介

（石原） 練習して合わせるまでおよそ何日ぐらいかけて練習したのか？

（中主事） 学年ごとの授業は9月から始まっている。全体で合わせたのは10月2週目ぐらいからなので、2週間から3週間ぐらいである。

（石原） 少ない時間のなかすごい。

（村本） 小学部の1年生からずっと音楽で演奏することなどを積み重ねてきている成果である。

（芹澤） 音楽療法は心を癒す、穏やかにするという話は聞く。今日は大勢の中でメロディと大太鼓、小太鼓、マリンバと、それぞれがバラバラなようでいて、リズムやメロディが聞こえてきた。すごく心が洗われた。良かった。

（3）高等部生徒の紹介（代表者）による窓清掃の実演

（高主事） 当然技術的なところもあるが、それ以上にこういう活動を通して、社会に出るにあたっての働くための基本的な態度を身につけるというところに重きを置いている。作業学習をやっていると技術的なところや製品そのものが注目されがちである。私たちとしては生徒の成長があつての活動なので、そういう内面的な部分も見ていただけて非常にありがたかった。

（4）報告

ア 福祉避難所について

（副校長） 8月5日にPTA主催で福祉避難所開設訓練を実施した。今年度は沼津市の福祉避難所の指定を6月25日に受けた。それを受け、8月5日にPTA主催で福祉避難所の開設訓練を行った。当初の参加者は約70世帯というところで想定をしていたが、暑さや夏休み中の活動ということもあり、少なめの参

加で 27 世帯約 50 人が参加した。

災害時を想定しての訓練ということで、避難者は福祉避難所を開設しますという連絡を受けて学校へ避難してきた。その後、避難してきた人から順番に、「トイレを作ってください」「テントを立ててください」「伝言コーナーを設営してください」というように、来た人に順番に、役割をお願いして、避難所を設営していくという流れで行った。避難者（保護者）は、学校の卒業生、在校生、避難所の設営をしながら、流れや道具を確認しながら設営をしていただいた。約半日の訓練ではあったが、短時間で設営も終わり、感想として「実際にやってよかったです」「いざという時にスムーズに動けるのかなと思った」というような感想も多くいただいた。課題を吸い上げながら、学校としてどういう運営ができるかを検討していきたいと思っている。

（立川） 今回、PTA 主催という形でやらせていただいた。防災用品がどこにあるのかは、学校でないと分からぬ部分があったので、主に先生方に補助をしてもらいながらやらせていただいた。実際に避難した時に想定以上に物品が足りていない。学校が、今回指定を受けて、市から準備していただくものもあるとは思うが、多分それだけでは到底足りない部分があると思う。避難を実際にやってみて、戸惑う部分を想定して、今現実的に自分たちがやったらこうなるだろうとプラスアップしていくということをやったが、初めてなのでバタバタしていた。例えば今日、地震が起きた時に実際できるかというと、全然できないと思う。保護者の方とすれば、参加する、避難するだけではなく、実際に運営していくという意識を持った方が来ていただいたので意欲的にやってくれたと思う。今回は福祉避難所という目的があったが、一般的の避難所でも多分起こり得ること。一般の方にも見てもらいながら、福祉避難所で最初にみんなが集まるわけではなく、それぞれの地域の避難所に行くので、もっと広く知つてもらって、避難所というものをみんなでやるんだということを知つてもらって、地域でもやっていただければなと思った。

（山本） 地域の方でもほとんどできてないところばかり。お互いにいろいろ役割をやり取りできるといいかなと思った。地域に対してどういうふうな伝わり方をするのか。避難所が開設されたという情報が市から来るのか、学校からなのか。地域としてはどういう役割をしたらいいのか。地域も協力できること、位置づけ、役割を見据え、というのがあった。

（芹澤） 福祉避難所というのは、一般的にトリアージした人の中から、体が動かないとか、負傷者とかいうような人たちが二次避難所や第三次避難所に行くというのが福祉避難所という対象の呼び名だと思う。沼津特別支援学校が沼津市と覚書をされたということで、卒業生、子どもたちを対象にした福祉避難所という設定でいいか。生徒たち、保護者、あと卒業生に特化した福祉避難所というのに意識で捉えた。沼津市との覚書が関わっていたということで、すごく安心して、すごくいい方向にあるのではないかと思った。

(校長) 沼津市との覚書の中には、福祉避難所の避難対象者を沼津特別支援学校児童生徒とその保護者、卒業生のその保護者というように限定して、指定をいただいているのと同時に、第一次避難としてここに来ても良いということも確認をいただいている。夏休みの訓練時の子どもの様子（落ち着いて避難できていた）から慣れ親しんだ場所に避難できるということを子ども達から私たちは感じさせていただいた。災害があった時にまず安心材料の拠点があるということはベストであると感じた。

(村本) 今後、知的障害、自閉症などの方々だけでなく、この地域で見ると重症心身障害者や聴覚障害の方も、情報を取得することが大変困難だから、そういった方々が希望されたらどうするのかという視野も広めていかないといけない。ニーズとしてはあると思う。今後、いろんな練習とかニーズを重ねながら、進めていくべきだなと思った。私も自分の住んでいる地元で、障害の方がいるのがわからない、気付かない。個人情報の関係で、明かさないこともある。いざという時に頼ってこられるかもしれないなと思った。福祉避難所の方は、少しずつ前進していくと思うので、頑張っていただきたいと思う。

イ 第1回協議会以降の進捗状況（部主事）

(5) 協議（司会：村本会長）

- ア 本校の学習支援に対して
 - ・社会参加と地域で輝く活動について
- イ 前期学校評価を受けた学校運営に対して
 - ・情報発信の方法について

〈Aグループ（山本氏、石原氏、芹澤氏、中学部主事、高等部主事）〉

- ・地域で子どもたちが活躍する場をいただきたい
- ・学校として、どのくらいの人数で、どのくらいのことをするのかが分かると依頼やすい
- ・活動の様子を動画で撮って、それを学校のホームページ等で紹介すると、一般の人がホームページ見たときに「やってるんだ」と分かる
- ・もし可能であれば、学校に来ていただいて、一緒にプランターとかで花植えをして、それを持って行ってもらうことはどうか
- ・ここにいる我々が良くても地域が負担を感じてはよくないし、先生たちが負担を感じても良くない
- ・この地域の小学校、中学校にはみんな太鼓クラブがあって、「原は太鼓」でやりたいなと思っている
- ・作業製品の受注生産はできないか

- ・学部や学年で取り組んでいることが多いので、「学校全体でこれをやっている」というスケジュールを出してもよいのではないか
- ・情報の発信については、地域としては「回覧板」がよいと思う

< B グループ（村本氏、池谷氏、小学部主事、教務主任、教頭）>

- ・小・中学部からの積み上げが良い活動になるかもしれない感じた
- ・絵を描くや作品を飾るなど地域で子ども達の良さを見ていただける
- ・小学部は子ども達の純粋さが輝いている
- ・作品を実際に作って企業で貸し出すような形でそれぞれ展示しているところもある
- ・粘土細工や絵など学校で作ったものを企業の展示スペースや企業内でもあってもいいので、常に作った物を交換しながら、「こういうことを子供たちができますよ」「こういう感性ありますよ」という展示の仕方で十分だと思う
- ・高校だと文化祭があるので一緒に参加させてもらうような学校を増やしていく、文化祭の時に清掃をやってみたり同じ年の子たちとの交流をしたりそういうところでも深くはまってくればもっといいのではないかと思う
- ・施設だけが「障害者週間です」と結構やっていると思うが、学校でもその週間で、何かメッセージを地域に発信していただけるとよい
- ・動画も編集の仕方で感動的になる
- ・例えば「アドベンチャーツアーイン沼津特別支援学校」とし、小学部では体験や授業に入っていただき、中学部に行ったら一緒にボッチャをやっていただき、高等部に行ったら更にレクチャーを受けていただくといったように、どんどん学校に入ってもらう

閉会（校長挨拶）

本日はありがとうございました。本校のことを自分事のように考えていただき、話題が絶えなかった。一緒に考えてくださる方々がいるんだ、様々なバックボーンを持っている方々が知恵をくださることを心強く思う。ちゃんとやっているという声をいただけた。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。